

8日 木曜

詩篇



- 41:1 幸いなことよ
弱っている者に心を配る人は。
わがわいの日に 主はその人を助け出される。
- 41:2 主は彼を見守り 彼を生かし
地上で幸せな者とされる。
どうか彼を 敵の意のままにさせないでください。
- 41:3 主が 病の床で彼を支えられますように。
彼が病むとき 寝床から起き上がらせてください。
- 41:4 私は申し上げます。
「主よ あわれんでください。
私のたましいを癒やしてください。
私はあなたの前に罪ある者ですから。」
- 41:5 私の敵は 私の悪口を言います。
「いつ彼は死に その名は消え去るのだろうか。」
- 41:6 人が見舞いに来ても その人は嘘を言い
心のうちでは悪意を蓄え
外に出てはそれを言いふらします。
- 41:7 私を憎む者はみな 私についてともにささやき
私に対して悪を企みます。
- 41:8 「邪悪なものが 彼に取りついている。
彼が床についたからには
もう二度と起き上がれまい。」
- 41:9 私が信頼した親しい友が
私のパンを食べている者までが
私に向かって かかとを上げます。
- 41:10 しかし 主よ。あなたは
私をあわれみ 立ち上がらせてください。
そうすれば 彼らに報いを返せます。
- 41:11 このことによって私は知ります。
あなたが私を喜んでおられることを。
敵は 私に向かって勝ちどきをあげません。

- 41:12 私の誠実さゆえに 私を強く支えてください。
いつまでも あなたの御前に立たせてください。
- 41:13 ほむべきかな イスラエルの神 主。
とこしえから とこしえまで。
アーメン、アーメン。

病のときは心細く、自分がみじめにさえ感じます。
ましてや敵に「邪悪なものが 彼にとりついている。」
(8)などと言われたら、本当に立ち直れないでしょう。
自分はそのまで酷い扱いを受けるほど悪いことをして
いないと思って憤るかもしれません。
しかし自分は正しいのに…と思うのは、幸いなことな
のです。
正しさはその人の力になるからです。
ましてや「弱っている者に心を配る」(1)ような愛の人
は、必ずや主が「病の床で…支え」(3)てくださるので
す。
「私の誠実さゆえに 私を強く支えてください。いつま
でも あなたの御前に立たせてください。」(12)と、胸を
張って言える者でありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の
約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願い
など）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのど
の部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

